

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		当施設が地域に開放しているグランドゴルフ場がある。参加者がグループホームに立ち寄れるよう働きかけて行き職員も積極的にゲーム参加をおこなう。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の健康教室、老人会、小学校、ホタル会や地元の図書館などに出向き、極力人々との交流に努める。

福岡県 グループホーム 愛らんど

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は、在宅支援センターが主体となり、地域の老人会へ出席させて頂いており、そこで健康教室として、血圧測定、骨密度測定、健康体操、および健康維持のためのアドバイスをこなしている。また、当グループホームの紹介や取り組みについて説明を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングや終礼にて自己評価内容を確認することにより、グループホームの在り方を再確認し取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況報告や行事、グループ活動の目的を報告している。また、意見や質問を聞き、今後のサービスの向上に努めている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者へは、グループホームについてわからない事があれば連絡を取り合っている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホーム内の職員研修にて、資料、パンフレット、過去の研修記録を元に伝達している。現在、成年後見制度適応の対象者の方はおられない。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修記録を元に、研修参加の経歴がある職員により、グループホーム内で研修を行ない、虐待につながる事例をあげてそれに向け注意して取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は利用契約書、重要事項説明書に基づいて内容を説明し、不安や疑問がある場合は随時対応し同意を得ている。解約の場合は、今まではケガや病気による入院がほとんどで、入院の際は退院後のフォローを、他施設とも連携を取り合っている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各入居者に対し、落ち着ける場所へお誘いしたり、各個人の居室へ訪室したりして、話し易い雰囲気の中で色々な意見や要望、訴え等を傾聴し、必要であれば当法人全体の苦情窓口担当者を外部受付として設けている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしの全般については2ヶ月毎に1回の運営推進会議にて、日々の生活記録等を閲覧してもらっている。金銭面に関する事はその都度家族へ同意または報告をしている。職員異動に関しては異動決定後に運営推進会議にて正式にご家族へ報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等は運営推進会議にて、質疑応答時間を設定し、苦情、不満等に関しては面会時に、管理者及び職員が報告を兼ねて聞くと共に第三者委員を苦情受け付け窓口として委任して、出来る限り意見収集に努めている。上がった意見苦情等は朝礼会議等を通じ改善を行っている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人主催の運営会議の内容を回覧および報告し、法人の状況、グループホームの状況を伝え、それに対して意見を募り提案されたものに対しては検討し反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族が要望する入居者の病院の定期受診付き添いや認定調査の立会い日等に関しては日程が決っており、その日程に合わせて事前に勤務調整をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動に関しては人事会議にて十分な検討をされた上で、グループホームにふさわしい職員を選任している。離職者に関しては出来る限り、本人の事情や不満、要望を聞くようにし、出来るだけ続けて勤務してもらうよう話をしている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19 人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては、性別、年齢等は特に制限はないが、なるべく日曜、祭日出勤、夜勤の出来る方を優先している。また、各々得意とするものを分担し、計画実施する事でやる気を持たせると共に、自己実現に向けて研修出来る様配慮している。</p>		
<p>20 人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>職員の人権、教育については当法人内で行なっている接遇マナー研修に参加したり、法人内の委員会の取り組みによるマナーチェックシートによる自己啓発に努め、職員の質のレベルアップを図っている。</p>		
<p>21 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の育成に関しては、個人評価シートを用いて行っている。これは自己評価及び上司評価の2段階にて行われ、評価は定期的に行われ、個人評価の結果は個人面談にて本人納得の上決定される。</p>		
<p>22 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の介護保険事業者協議会主催による介護、医療に関する定期的セミナーやグループホーム部会の会議に参加したりして、勉強会や情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。</p>		
<p>23 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個人的な悩みを聞く機会を設けることはもちろん、年間に数回、職員全員参加にて合同会議を行い、その後業務終了後に親睦会をおこなっている。又、法人全体の職員旅行や誕生日にリフレッシュ有給休暇を取れるようにし、ストレスの軽減に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月の運営会議にて、事業計画目標の取り組みや実績等を報告しており、その都度目標達成する為に色々なアドバイスを受けている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	事前に家族や関係者より要望や意見を聞いたり、本人が現在どういった生活を送っているか等、本人自身の思いや要望を聞き受け止めるように努力している		
26 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	普段より職員全員で入居者に寄り添いコミュニケーションを多くとるように心がけている。また、本人が話し易いような雰囲気を作り、本人の感じていることや、今の思いなどを聞きだし受け止めるように努めている		
27 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、関係者の方より少しでも多くの情報収集をして、意向や希望などを含めその時に必要な支援を提供出来るように努めている。		
28 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に関係者より情報をもらい、数回にわたり本人や家族に事業所の見学をしてもらっている。その際、本人及び家族に納得行く十分な説明、相談を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔なつかしい思い出話や人生相談、冗談などを交え色々な会話をしている。又、入居者からは、料理の仕方、花の水やり、植物の育て方などを教わったりと職員自身も勉強させてもらっています。その他は食事準備や家事、掃除などを職員と利用者が一緒になってしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人が日頃困っている事や要望があった時は聴き入れ、家族が面会に来られた時は職員と一緒に考えて、本人の一番暮らしやすい環境を作っている。		
31 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方には家族会等を通じ認知症を理解していただけるよう、説明したり相談に乗って助言など行っている。また、本人より家族に対しての思いなど伝えたりすることによって、より良い関係が築けるように支援している。		
32 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人より希望があれば家族の方と相談の上、以前過ごしてきた自宅や馴染みの場所にお連れしている。その時は昔を思い出され、普段では見られない良い表情や話しが聞けたりと、本人の新しい面を見ることができ、その方の生い立ちが見れた。		
33 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は常に入居者の生活暦や性格を理解した上で利用者同士の関係把握に努め、トラブル回避や、コミュニケーションを広げていく支援を行なっている。利用者同士のトラブルがあった時は双方の訴えを聴き入れた上で原因を探り、その日のミーティングにて今後の統一した対応の仕方を申し合わせている。		
34 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院となり、復帰が困難な状態になると予想されると医師からの説明を受けた利用者に対しては、ご家族に十分な説明を行い、家族の不安や要望を聴き入れ納得をされた上で、契約終了の同意を得ている。その際、退院後についても積極的に相談を受けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者とのコミュニケーションや寄り添っていく生活の中で、直接希望を聞いたり表情を読み取ったりして要望や希望などを酌みとる事に勤め、出来る限り本人の意思に添った支援を心がけている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者の生活歴は入所前にアセスメントシートにて確認をしている。その他、家族の了解の上、職員付き添いにてその利用者の自宅に訪問をし、その方の馴染みの暮らし方、生活環境等の把握に努めている。</p>		
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>掃除、食事準備、後片付け、グループ活動、学習など、日常生活のなかで、一人一人の状況の把握に努め、それを介護計画に取り入れ、生活の向上に反映している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意志を尊重しその人らしく暮らせるように、日々の生活の中から日々の生活の中から課題を見つけ出し、本人、家族や併設施設の専門スタッフが、かかりつけ医等よりアドバイスを受け介護計画を作成している。</p>		
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的にモニタリングを行なっているが、利用者の身体状態の変化が生じた時は臨機応変に計画の見直しを行い、状況に即した計画の見直しを行っている。</p>		
40	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入浴、排泄、作業、知能リハビリなどいろんなことを実施していくなかで本人の表情の変化や意欲など、また、どのようにしたら参加され楽しまれたなど記録に残し職員で話し合いの場を持ち情報共有したうえで実践に生かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の希望や状況に応じ、ドライブ、買い物、受診や外食等柔軟な支援を行う事で本人、家族との信頼関係はもちろん、在宅により近い生活環境が提供できるように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアとしては、年に数回、季節のおやつ作り教室や催し、小中学校や園児たちの訪問にて交流を行なっている。防災訓練としては、地域の消防署や消防団の協力を得て施設全体の合同防災訓練を年1回行なっている。		
43 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人内の会議のケアマネやサービス事業所と話し合いを行なっているが、他の介護保険事業所(グループホーム)の方と話し合う機会はない。		地域包括支援センター等との話し合うような協議会等があれば参加したいが、保険者へも聞いて行きたい。
44 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護については研修会に参加した者がスタッフ会議にて内部研修を行い成年後見制度や虐待防止等について勉強している。現在のところ、地域包括支援センターと協働でケアマネジメント等で協議することはない。		
45 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後、ホームの協力病院に変更される方、又、入居前からのかかりつけ医等、本人や家族の意向に合う支援を行なっている。又、定期的な歯科往診があり緊急時に速やかな対応が可能である。		
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族の意向に合わせて、専門医へ定期受診をしているその際、日常生活状況を報告書としてかかりつけ医へ提出し、専門的な助言をしてもらっている。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームには看護職員を配置しており、日々健康チェックを行なっている。急返事は併設病院の協力を得ると共に看護職員又はグループホームスタッフ共、情報交換を行い、常に連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院時された時は、入院先のソーシャルワーカーより回復度の情報を収集している。また、入院中の体調の変化に合わせて、本事業所での処遇の仕方を検討するようにしている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末においては同法人施設と連携を図り、継続的にケアが提供できるように配慮している。レベルダウンが見られた時点で、本人、かかりつけ医等と話し合い方針を決定している。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	その時の症状により、悪化が予想される時にはかかりつけ医に早めに現状報告し、急変時の対応について打ち合わせを行っている。少しずつ重度化していく場合は、本事業所での医療的対応や夜間対応に関して、可能な範囲を家族へ説明し、その後の検討を行なっている。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	開設して以来、グループホームから別の居所へ移り住んだ実績はない。もし、家族や本人より別の場所へ移り住みたいとの要望があれば、今までの生活歴の情報等を準備し、利用者が今後も安心して暮らせるよう関係者との情報交換を行ないます。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
52 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員に対し、定期的な接遇マナーの勉強会などを実施し、入居者を尊重した声掛けや介護を行なっている。トイレや入浴の際は特に注意して、入居者の自尊心や羞恥心に配慮して行なっている。又、記録は人目につく所に置かない、入居者の前や近くで本人や他者の話をしない等注意して行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に入居者に寄り添い、本人が思いや意向を話しやすいような雰囲気作りを心がけている。何気ない和やかな会話の中で、本人の願いなどを収集し、本人の意思にて暮らせるよう全職員で努力している。		
54 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課はあるものの、本人の意思を尊重し、時間や内容を合わせている。声かけも出来るだけ本人が選択出来る様に心がけ、基本的にその人らしい生活スタイルが守られるように取り組んでいる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容によるカットやパーマ、カラーリング、顔そりをしたり、利用者個人の以前からの馴染みの美容院へ行くなど、本人の希望を大切にしている。		
56 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の食事は、併設の管理栄養士のメニュー計画により厨房が食材を準備している。食器準備や盛り付け、配膳、後片付けは利用者を中心として職員と一緒にしている。その際は、利用者の出来る範囲を見極めて行なっている。		
57 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者全員が女性のためか飲酒、喫煙の希望はない。希望があれば当然対応していきたいと思う。お菓子や果物等の購入の希望があった場合は事前に家族への連絡、了解を得た上で利用者と一緒に買い物に行っている。その時は食べれる量を考慮して購入している。		
58 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗が減るよう、排泄時間や内服薬の種類、体調、理解度を元に観察を行い、排泄リズムを把握して出来るだけ失禁を減らし、トイレにて気持ちよく排泄してもらうよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
60	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
62	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
63	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
64	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より家族への電話連絡の依頼があればその都度対応している。また、手紙は、入居者家族より定期的に絵葉書が来る方がおられ、こちらからも手紙を出すなどして、手紙のやり取りをしている。		
66 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	個人の居室を、今まで住み慣れた自宅に似た雰囲気近づけるため、使い慣れた家具等を持ち込んで、本人はもちろん家族にとっても居心地よい空間を作ったりと工夫をしている。また、面会者には個人の居室の他、景色のよい面会コーナーを設けて、ゆっくり会話できるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
67 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修における身体拘束の会議に職員が参加し、それをグループホームに持ち帰り、参加出来なかったグループホーム職員に対し、職員会議時に再度、研修報告するようにしている。		
68 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームは老健と併設していることから、日中は施錠無く自由に入出入りできるようにしている。夜間は危険回避の為併設施設間のドアのみ施錠。エレベーターはロック解除用ボタンを設置。		
69 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個人が居室におられる場合は、入室の際は入り口にて声をかけている。おられない場合は本人と一緒にいくか、一言声を掛けて入室している。ただし、転倒等の危険の恐れが見られた場合は安全を優先し、プライバシーに配慮しながらも、本人の同意なしに入室する場合がある。		
70 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の中にはカミソリやハサミ等を持っている方がおられるが、本人の日常生活の状態や行動を把握した上で所持してもらっている。状況の変化により切り傷等の恐れがある場合は、本人に説明し同意の上、ホームで管理するようにしている。また保管場所は全職員が把握するよう、申し送っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒に関しては日課として散歩等を取り入れ、歩行時に介助具を正しく使用できているか確認している。窒息や、行方不明、火災等に関しては、法人内の研修や、地域消防署主催の実技研修や防災訓練計画を立てている。		
72 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	地域消防所主催による救急救命講習に職員がすすんで参加している。また夜間時の急変時の対応や連絡先の確認を定期的に行なっている。		
73 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災環境委員会により、年間スケジュールに避難訓練、防災訓練を計画しており、法人内訓練や消防署合同の訓練を行なうようにしている。		
74 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	運営推進会議にてリスクを議題として取り上げ、配布資料にて日頃のリスクに対する職員の意識や着目点を説明し、現在の入居者の身体状況をあわせて報告し、気をつけている点を伝えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定や、常時、入居者の表情や動作に注意を払い、体調変化の早期発見に努めている。異変に気づいた時は職員同士連絡、報告を取り合い、看護師や医師へ状況報告するよう勤めている。		
76 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者個人の健康手帳を元に薬名と効用がわかるように努めている。また、薬の変更があった時は、職員同士報告をし合い、申し送りノートや個人ケース記録に記録し、全員が確認出来るようにしている。また、薬の追加が出た場合、副作用が出ないか注意して観察するよう申し送っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の確認は毎朝バイタルチェック時に本人に直接尋ねて確認しているが、排便の有無を認知出来ない方に対しては、日頃の行動を観察してその方の習慣を把握し、腸の働きがよくなる様、飲食物を工夫し、予防と対応を行っている。		
78 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、口腔ケアをうまく出来ない方に関しては、本人がしやすいよう工夫をしている。またどうしても出来ない様であれば、最後まで一部介助を行なって、清潔保持に努めている。		
79 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは厨房の栄養士が管理している。職員は摂取量や水分量をチェックして栄養士と相談の上、入居者個人に合わせた支援をおこなっている。		
80 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防として年間を通し散歩や外出後は、手洗いやうがいを必ず実行しており、時期によっては法人全体で感染症対策防止に取り組み、手すり等やトイレ、浴室、椅子等、ホーム内を消毒して対応している。また、面会者に関しても、手洗い、うがい、マスク着用をお願いし、場合によっては面会を控えて頂いている。		
81 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については保健所の指示のもと管理を行なっている。調理器具等はチェック表を元に、こまめに消毒している。		
(1)居心地のよい環境づくり			
82 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には木製の温かみがある看板を掲げている。また、ホーム入り口付近には観葉植物や手作りの手芸品等を置いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は建物の上階に位置しており、近辺の雑音等が入りにくく、静かな環境にある。建物は各居室の窓が大きく、自然の光りがまんべんなく差し込み明るい雰囲気である。また、季節感を味わおうと言うことで、野菜の形をした手作りカーテンなどを飾ったりしている。		
84 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事や茶話会などは決った場所ではなく、その時の気分によって好きな場所で食事など楽しんでいたできるように何箇所かにテーブルを設置している。また、テレビの前やリビングには何箇所かにソファや椅子等があり、自由に過ごしていただるように工夫している。		
85 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族に、以前自宅の住み慣れた部屋に少しでも近づけて安心できる居室を作ろうということで、部屋を畳敷きに変えたり、自宅で使い慣れた家具を持ち込んだりと工夫している。		
86 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時期をみて、空調機械を使用しない時は居室の窓やホーム内の天窓を開けたりして、なるべく自然の環境に合わせている。夏場はこまめな冷房やドライ運転を使い分けて、調整し1日1回以上は換気を行なう様心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自宅で暮らしていた環境に近づける為、居室に畳の空間を設けており、座る、立つなどの身体機能の保持が出来るようにしている。		
88 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食器棚などを見やすい場所に置いており、入居者がいつでも自由に使用できるように工夫している。また、トイレの場所、方向が分かりやすいように、入口に手作りのカーテンを備え付けている。		
89 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには、趣味としては鉢花や観葉植物を置いたり、施設内の畑に穀物の種や野菜の苗を植えたりして、その成長を観察するなど楽しみを持って生活している。		

サービスの成果に関する項目

項目

最も近い選択肢の左欄に をつけてください。

90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

福岡県 グループホーム 愛らんど

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

束縛のない家庭的な生活の場作りに力を入れて取り組んでおります。